

# 第4学年 道徳科学習指導案

平成29年6月15日（木）第5校時

- 1 主題名 やさしく親切に 内容項目 [B 親切・思いやり]
- 2 ねらい 相手のことを考えることが親切につながることを理解し、進んで親切にしようとする態度を育てる。  
教材名「心の信号機」（出典：学研「みんなのどうとく」埼玉県版）

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容について

本主題は学習指導要領の内容項目【親切・思いやり】「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」を深めることを意図したものである。これは、低学年の内容項目「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。」を受け、さらに高学年の内容項目「誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。」へと発展していく。また、中学校の、「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。」につながっていく。

よい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を推し量り、自分の思いを相手に向けることである。そして、それを温かく見守り、接することや相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為として表れることである。多様な人のかかわり合いの機会を多くし、人間愛を根底とした思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。また、中学年のこの段階においては、相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。

以上を踏まえ、相手の現在の状況、困っていること、大変な思いをしていることなどを想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行おうとする児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、素直さをもち学校生活を過ごし、様々な活動に対し意欲的に取り組もうとしている。また、学級生活係活動を進んで取り組んだり行動したり、友達に対していけないことはいけないと注意したりと中学年のリーダーとしての意識が高まっていることを感じる。しかし、友達を注意する時に、相手の状況を考えず自分の都合だけで注意したり、声を荒げたりして衝突する場面も少なくない。自分では、「〇〇はいけない」「〇〇をしたらだめだ」という思いが先行し、友達の立場や思い、状況を見ずに注意をしてしまう様子が見られた。朝の会や学級活動において、相手の立場や状況を考え、困っていたら手を差し伸べていくように指導してきた。その結果、友達に対して注意よりも「どうしたの。」「大丈夫。」といった言葉をかける様子が見られるようになった。

これらを踏まえ、本時では困っている人がいるときに進んで声をかけ、親切な行為ができるかについて考えさせ、話し合わせる。その上で、相手の立場を十分に理解し、困っている人を助けようとする思いやりや親切について深く考えさせたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材の主人公の「ぼく」が思いやりの気持ちがあってもなかなか声をかけられないという状況は、多くの児童にとって共感しやすい内容と思われる。「ぼく」は、目の不自由な男の人と出会い、声をかけて助けようとするも、声をかけることをためらってしまうといった葛藤する様子が

でてくる。この場面を自分だったらと置き換えて考えさせ、この親切にしたいができないという「ぼく」の気持ちに共感していくことで人間理解を図る。また、葛藤後の「ぼく」の行動にふれ、勇気を出して親切な行為をした主人公の姿を追い、思いやりや親切について考えさせたい。

#### 4 研究主題との関わりと他の教育活動等との関連

心豊かにかかわり、自他共によりよく生きようとする児童の育成  
 - 「考え、議論する」 道徳の時間の充実を図り、自己の生き方についての考えを深める -  
 =道徳科への移行をふまえて=

##### (1) 研究主題とのかかわり

本主題では、相手の立場に立った思いやりや親切について学んでいく。思いやりや親切な心を持ち、他者に接することは、社会生活を支える大切な価値の1つである。自分と関わりのあるものだけ、また自分が優位な立場として弱いものを憐れむのは本当の親切ではない。そこで、相手の立場を理解しようとしたり、人格を尊重しようとしたりして支援をすることが大事である。このことを本資料の主人公の立場に立って考えることで、真の思いやりについて考えさせたい。

##### (2) 指導の工夫

###### ① 指導方法を多様化する工夫

- ・葛藤場面で役割演技（二重自我法）を取り入れたり、「見つめる」の活動でワークシートの活用を取り入れたりすることで相手の立場にたった思いやり・親切とはどんなものか考えさせる。

###### ② 学習の場や時間の設定の工夫

- ・主人公の心が揺れる場面で役割演技を活用し、二つの立場を出させたり交換したりして、意見交流をしていくことによって、多様な考えを知り、親切について考えさせたい。

###### ③ 学習集団を多様化する工夫

- ・ペアや小グループ、またクラス全体で友だちと話し合い、自分の思いや考えを自分の言葉で話すことで、道徳的価値や自分の生き方について振り返ることができる。

#### 5 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価の観点	時間
導入	1 音響式信号機の音を流したり写真を見せたりして、知っていることを発表する。	・羽生市でも聞いたことがある。 ・横断歩道を渡るときに鳴っている。 ・羽生市で設備を見た。	○自身の知っていることを発表させ、主題への興味関心を高める。	3
展開	2 教材「心の信号機」の条件・状況を知り、教師の読み聞かせを聞く。		○登場人物、条件・状況をおさえる。	5
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物 ぼく（主人公） 男の人</li> <li>・条件・状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ぼくは三度も信号が変わっても立っている男の人が気になる。</li> <li>○ぼくは声をかける勇気がなかった。</li> <li>○男の人は信号機の柱でずっと立っている。</li> <li>○目が不自由らしい。</li> </ul> </li> </ul>				
	3 主人公「ぼく」の心情を中心に話し合う。			2 4

親切とは何だろう。

○三度も信号機が変わっても渡らない男の人を見たぼくは、どんなことを思ったのだろうか。

- ・ どうして渡らないのだろう。
- ・ 何をしているのだろう。
- ・ 渡ればいいのに。

○男の人が気になるが、どうしてよいかわからずに、見ているぼくの思いをおさえる。

意図：三度も信号機が変わっても動かない男の人の様子が気になっているが何もできないでいる「ぼく」の気持ちについて考えさせる。

◎男の人のところまで足がゆっくりとなってしまうが、誰かに背中をたたかれたかのように声をかける決心をした時の「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。

- (声をかける)
- ・ 助けに行くべきだ。
  - ・ 困っている人を助けたい。
  - ・ このままだとおじさんが事故にあってしまう。
  - ・ 助けないと渡れないままだ。
  - ・ 声をかけないと後悔する。

○心が葛藤する時間を確保し、全員に自分の考えをもたせたい。

○役割演技（二重自我法）を通して、「声をかける」「声をかけない・かけられない」という対立する心の動きを自己内対話として表現させる。

○男の人に声をかけることが出来ずにいるぼくは、心の中でどんなことを考えていたのだろうか。

- (声をかけない・声をかけられない)
- ・ 見知らぬ人に声をかけるのは恥ずかしい。
  - ・ 勇気がない。
  - ・ どんな風に声をかけたらいいいのか分からない。
  - ・ 断られてしまうかもしれない。

○二つの対立する考えを分類して板書することによって、話し合いの視覚化を図る。  
☆声をかけるかどうかの葛藤する「ぼく」の気持ちをとらえることができたか。

(「発言」)

意図：声をかけたいと思いつつも、なかなか声をかけることができない「ぼく」の気持ちに共感させ、人間理解を図る。

○男の人を見送る「ぼく」は、どんな思いだったのでしょうか。

- ・ 声をかけてよかった。
- ・ ほっとした。
- ・ 助けることができてよかった。

○声をかけた事で、おじさんを助けることができてほっとした「ぼく」の気持ちをとらえさせる。

意図：親切にできた時の気持ちを考えさせ、価値理解を図る。

	4 今日の学習から、『親切』について考える。 ・自分の生活を振り返り、『親切』について書こう。	・困っている人を助けること。 ・見知らぬ人でも、困っていたら親切に声をかけ、助ける。 ・相手の立場を考えて、優しくする。	○書く活動を行うことにより、『親切』について考えることにより、今まで自分の生活を見つめさせる。 ☆困っている人がいたら進んで親切にしようとする心を育てることができたか。 (ワークシートの記述) 意図：今までの自分を振り返ることで、思いやりや親切について考えさせる。	10
終末	5 教師の説話を聞く。		・相手の立場を考えて、困っている人に声をかけ親切にした体験を話す。	3

## 6 他の教育活動との関連

事前指導	道徳科	事後指導
(年間 学級活動) ・帰りの会で「きらきらタイム」を行い、優しくしてくれた友達、頑張っていた友達の活動や行いについて発表し、認め合う。	(6月) 教材名「心の信号機」 相手のことを思いやり、進んで誰にでも親切にしようとする態度を育てる。	(年間 当番・係活動) ・当番・係活動を始め、同じ当番や係の友だちが困っている時には、進んで、声をかけて親切にできるように取り組んでいく。
(4月 学級会) ・「なかよし会を開こう」を行い、去年とは違った友だちと名刺交換をしたりゲームをしたりして、クラスの絆を深める機会を設けた。	⇔ ⇕ ⇔ 家庭・地域社会との連携 ・学年便りや懇談会等で、子どもたちの良い行いや取り組みを紹介していく。また、道徳の授業を中心とした学級での取り組みの様子も合わせて伝えていく。	(6月 プール清掃) ・プールを清掃している時に、進んで友達を助けたり、自分の担当場所ではない所も手伝ってあげようとするように取り組んでいく。

## 7 評価の観点

〈児童の学習状況の評価〉

- ・役割演技を通して、自分のこととして主体的に親切について考えることができたか。

〈児童の道徳性に係る成長の様子の評価〉

- ・相手の立場や気持ちを考え、困っている人に進んで親切にしようとする意欲が高まったか。

## 本当の親切とは何だろう





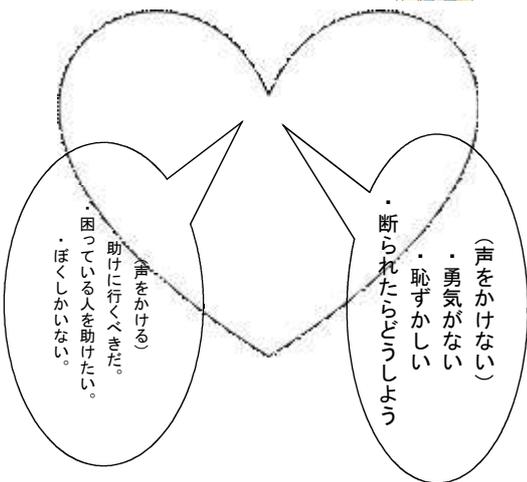


はっとした!



男の人を見送るべく

- ・声をかけてよかった。
- ・ほっとした。
- ・助けることができてよかった。



(声をかけない)

- ・勇気がない
- ・恥ずかしい
- ・断られたらどうしよう

(声をかける)

- ・助けに行くべきだ。
- ・困っている人を助けない。
- ・ほくしかしい。

信号機の柱につかまって立っている人がいた

- ・どうして渡らないのだろう。
- ・何をしているのだろう。
- ・渡ればいいのに。

心の信号機

- ・男の人が気がかり
- ・声をかけるか迷ってる



- ・信号機の柱につかまるように、じっと立っている。
- ・目が不自由そう